

会議議事録			
会議名	令和6年度第1回	場所	宝塚市役所4階 大会議室
	宝塚市自立支援協議会 全体会	開催日時	令和6年10月30日(水) 14:00~16:00
出欠者	出席者：全体会委員23名 定例会6名 専門部会事務局7名 市4名 傍聴7名		
議題	内容(決定事項等について)		
1.宝塚市自立支援協議会について	<p>事務局より自立支援協議会について説明。</p> <p>会長：地域の支援力を上げる会議である。各立場から自由に意見をもらう場になるので、よろしく願いしたい。</p> <p>事務局：自立支援協議会の説明。</p> <p>【P2】『^{がい}障害のある人が自立し、安心して暮らせるまちづくり』が理念となっている。事務局会議や特定相談支援事業所連絡会にて個別事例を検討していき、必要時に専門部会へ挙げていく。</p> <p>全体会は年2回行っているので、次回もぜひ参加していただきたい。皆さんの関係機関の横のつながりで形成している。</p>		
2.令和6年度専門部会活動経過報告及び意見交換	<p>○けんり部会 (報告については別添資料「活動経過報告書」参照。)</p> <p>会長：日常的に権利が奪われていることがあれば、解決にむけて話す会だとも言える。バス停の事例がそうである。</p> <p>委員：4月から民間企業も合理的配慮が義務化された。気になるのは、民間企業に対し、市として情報発信ができているか。合理的配慮について民間企業に対してどのようにPRしているか。</p> <p>事務局：現在、差別解消については支援地域協議会を設立している。そこで新たにリーフレットを作成予定。今年度はまだ動けていないが、商工会議所を通して周知する計画を立てている。</p> <p>会長：ハローワークの立場で相談等はあるか。</p> <p>委員：仕事の相談をする場になるので、合理的配慮に関する相談が4月以降増えている。在職者からの相談が多く、事業所を訪問して在職を続けるか・・・というような相談が増えている。</p> <p>会長：建設的な話し合いができるかがこれからの課題かなと思う。</p>		

委員：選挙の話になるが、車いすの高さに合う投票所はあるが、手が使えない人は人を呼ぶしかない。毎回、人の名前を読んだり、「何番の人」で呼ぶのはまわりにわかるので嫌だなと思う。「この人ですか」と見せる配慮があれば。考えてほしい。

会長：この話は合理的配慮になるかと思うが。

事務局：個人的な話になるが、選挙事務に携わって、付き添う際は指差しで対応している。徹底できていないということなので選挙管理委員会には伝えておく。

会長：可能な配慮だと思うのでよろしくお願ひしたい。

委員：【P4】の真ん中であるが、JR 武田尾駅のエレベーターは、まだ設置することが決まった段階である。資金は JR は拠出しておらず国と県と市である。総工費 14 億円ほどかかるが、データによると乗降客は 450 人とあるが、この法律ができたからと考えていいのか。

会長：北部は高齢化及び人口減少となっており、そのためではないかと思う。

委員：エレベーターは 4 年後と聞いている。バスもあるが朝でも 4～5 人が乗り降りしている。維持するのも負担が大きいのではないか感じている。

会長：合理的配慮への期待感もあると思われる。

委員：グループホームを利用している方の自己決定権について。1985 年くらいに福祉の規制緩和があり、競争を促した経緯がある。一番大事なのは権利をどう守るか。1993 年にはミネソタ州では施設を廃止し、グループホームへ移管を進めていた。大事なのはオンブズマンであり、ソーシャルワーカーがグループホームを巡回している。権利を阻害するものへの予防。1994 年に州の老人ホームを見学に行った。オンブズマンが機能していると質が高かった。ソーシャルワークの機能を高めていくことが、後で出てくる地域連携推進会議という会議形式となっているが、実効性を伴うのはなかなか難しいと思うので、丁寧に議論してもらいたい。日中型以外のグループホームはどうするのか。大阪では民間の NPO がオンブズマンを契約しているという話もある。施設や在宅の宝塚市の^{がい}障害者の権利をどう守っていくか議論いただければと考える。

会長：企業であれば ISO、福祉では認証する制度があまり聞かない。緊張関係がある制度でなければならない。

	<p>○くらし部会 (報告については別添資料「活動経過報告書」参照。)</p> <p>くらし部会事務局：まちづくり協議会の計画の見直しがあると聞いているので、計画の参考になる資料が作ればと考えている。</p> <p>委員：アンケートの質問項目だが、情報保障等があればよいが、コミュニケーションボードの利用の有無も検討していただければと思う。</p> <p>くらし部会事務局：参考にさせていただく。</p> <p>会長：R5 年度にかかりつけ医機能の強化について、国の審議会で検討されていたが、ご存じの方はいるか。→なし。</p> <p>部会でも受診カードを以前作成していると思うが、また復活を検討してもらえればと思う。</p>
	<p>○しごと部会 (報告については別添資料「活動経過報告書」参照。)</p> <p>会長：この協議会に新しい風を吹かせようとしている。この協議会が、地域の障^{がい}碍のある方が住んでいてよかったと思ってもらえる会であって欲しい。</p> <p>委員：合同説明会へ参加した。7月だったので暑かった。外に出る人がしんどいのではないかと思った。通にくい方への配慮はできるか。もう少し早くしないと進路も選びにくいのではないか。</p> <p>部会長：コロナ禍の際に Zoom や YouTube のライブ配信を行った。しかしニュアンスが伝わらないことが課題ではないかという意見もあり、今回は対面のみとした。7月開催になったのは、過去を踏まえて早めた方であったが暑さ対策については、考えていきたい。</p> <p>委員：配信してもらえれば見ることはできると思う。しかし、知的障^{がい}碍の方は、対面でないと実感がなく理解できにくいところはあると思う。説明会の対象については、進路決定は1年生から早めからしているので、3年だからと早めなくてもよいと思われる。働いている保護者が多いので土日開催は良いと思う。</p> <p>会長：学校開催についてはいかがか。</p> <p>委員：体育館に入れる範囲であれば不可能ではないと思うが、たくさんの事業所が入ることは難しいかもしれない。回数を分けるとかできるとよい。</p> <p>委員：本校は肢体の学校なので、保護者が参加した感想としては「うちの子には合わないな」という意見があった。学校開催という案では2年に1回、生活介護の事業所に来てもらっている。毎年開催の要望も受けている。市内の特別支援学級にも声をかけているので、合同説明会</p>

	<p>の情報提供ができるのではと思う。</p> <p>部会長：学校で開催すると生徒にとっていい機会になると思うので、いい話を聞かせていただいた。</p> <p>委員：A型を15年している。新卒の方を迎えたり、社会経験がありA型に来ている現状もある。先日は、姫路市からダイレクトに申し込みがあった。制度改正もあり、A型は現在4割閉鎖してきている。宝塚市のA型について、一般就労の環境も含めて検討してもらいたい。</p> <p>会長：報酬改定で5,000人の解雇があった。国としては事業所を整理したつもりかもしれないが、真面目に運営している事業所まで影響しているのは問題だと思う。どこかで議論できればと思う。</p> <p>委員：会議の在り方について議題に挙がっていたが、各会から会員に発信するため、会議案内のチラシはWEBにも配信してもらいたい。議事録がないのでこちらもWEBに記載してもらいたい。事務局で検討をお願いする。</p> <p>委員：議事録だと大変なので要点引きでどうか。</p> <p>会長：議事録はホームページに載っているが、完成後委員の皆様を送る形はどうか。</p> <p>事務局：委員への送付は対応する。議事録作成に時間を要しているのは申し訳ない。早めていきたい。</p>
	<p>○こども部会</p> <p>(報告については別添資料「活動経過報告書」参照。)</p> <p>部会長：たからっ子ノートのプレアンケートをとったところ、満足が0 不満足が2割 わからないが8割であった。アンケートをとり、現状把握し、好事例の収集も含めて行っていく。前向きなノートになればと思う。</p> <p>委員：たからっ子ノートは人に知らせる意味もあるが、親が子どもとどう向き合うかについて参考にしてもらいたいと思っている。生まれる前のこと、母の体調や喫煙、飲酒等も記載してしまうと、子に障^{がい}碍があった際に、母が落ち込んでしまうことを心配しているので、留意してもらいたい。楽しいことも記載し、親子関係を結べるような機能もってもらいたい。</p> <p>部会長：前向きなノートにしていきたい。参考にさせてもらおう。</p> <p>委員：他市と比べると使いにくさがあるかもしれないので、他市を参考にしてもらいたい。松江市では「だんだん」というサポートファイルも</p>

	<p>ある。たからっ子ノートについて入手方法の分かりにくさがある。</p> <p>委員：校区が伊丹市、宝塚市になる。サポートファイルがどちらにもある。就学する先々で様々な計画があるため、学校では貴重な資料となっている。保護者にも有効性を説明する必要性があると思う。</p> <p>委員：せいかつ応援センターや zukavo の窓口で、障^{がい}児の通学について相談を受けることがある。それがきょうだい児の場合もある。</p> <p>会長：通学支援は数年前のこども部会で活発に意見交換された。その際はボランティアの活用であったと思うが、継続性が乏しかった。こども部会として現状把握をしていただければと思う。</p>
	<p>○事務局会議・特定相談支援事業所連絡会 (報告については別添資料「活動経過報告書」参照。)</p> <p>事務局：地域移行、他機関連携について事務局会議で実施。</p> <p>会長：事務局会議を担っているところは、市内7か所。(委託相談支援事業所)。</p> <p>委員：特定相談支援事業所連絡会について。スーパーバイズについて課題があると書いてあるが、相談が少ないのが課題なのか、困難なケースが少ないのが課題なのか。</p> <p>事務局：相談が少ないことが課題であり、準備の時間が作れなかったり、何を課題とするかの判断が難しい。会議での諮り方も含め検討していく。</p>
<p>3.その他(連絡事項等)</p>	<p>(報告については、別添資料を参照。委員の意見等のみ記載)</p> <p>(1) 自立支援協議会定例会における協議事項について</p> <p>会長：これで決定というより、今後定例会で引き続き議論していくので、また全体会で報告いただきたい。</p> <p>(2) 日中サービス支援型共同生活援助事業所における地域連携推進会議の開催について</p> <p>委員：特になし</p> <p>(3) 障^{がい}福祉基金の活用について</p> <p>委員：基金については、自立支援協議会で論議されるべきではないかと思う。市内の医療的ケア児のケアを行っている短期入所事業所が閉鎖、また生活介護事業所が他市へ移管すると聞いている。不安が広がっている。支給決定時間があっても利用できる事業所がない。医療費助成</p>

は手厚い。介護保険についても、重度訪問介護が補填する仕組みも手厚い。障害福祉基金の有効な利用方法について検討してもらいたい。障害福祉課だけの話ではないと思う。議論について延長や別日の検討をいただきたい。

委員：地域生活支援拠点等の予算が拵がっている。計画相談の補助についても説明を聞きたい。精神の場合は就労継続支援 B 型の通所費助成はあるが、公共交通の費用補助がない。

事務局：地域生活支援拠点等の緊急時の短期入所について、予算上は上限で確保しているが、実績は単価によって変わる。令和 6 年度の決算額も低くなる。計画相談の補助については、予算上は 600 万円で毎年確保しているが、令和 5 年度の実績は少なかった。

委員：緊急受入れの短期入所ではなく総合支援法の短期入所が少ないため考慮してもらいたい。

会長：基金については、どこかのタイミングで議論がいろいろと思われる。額だけ見ると多く残っているように見えるが、持続可能性のことを考えないといけない。優先順位を考えないといけない。

(4) 障害(がい)福祉人材確保における検討について

委員：短期入所も並行して議論の中で進めてもらいたい。

事務局：施設入所は短期入所も併設しているので、人材という意味で検討できるかと考えている。